

「それこそ」は比喩表現、極端な形容や例の直前に置かれて副詞的に用いられ、「後続く形容について『これが最適の表現・形容である』『まさにこのことば通りである』といった意味を添えるはたらかがある」（日本語記述文法研究会（編）2009: 81）と説明される。本研究は『名大会話コーパス』を調査対象とし、会話における「それこそ」の機能には「強調」と「情報付加」があることを指摘する。

1. 強調

①指示対象の強調

(1) M006: 光っていうのは、うーん、その、か、神的なものというかー、ちょっとランクの上の（うん）異界的なものっていうのがあって、物語の主人公になるってことはそれだけほかの人とはやっぱり（うん）違う存在なわけだから、それでー、ひ、その主人公に光をかかわらせたり、光源氏の光だって、そも、それこそそうだし。 (data062)

(1)の「それこそ」は基本的用法である。「それ」が指す対象である「光源氏の光」を強調している。

②指示対象の状態・特徴の強調

(2) F152: で、民間の普通の日本語学校なんかは、それこそすごい時給じゃん。 (data047)

「民間の普通の日本語学校」がもつ特徴である「時給（の安さ）」を強調している。

③ある対象の状態・特徴の強調

(3) F068: (前略) あの、ビロードの箱なのよね。で、開けてみようかと開けてみたら、（うん）それこそ月の雫みたいな真珠の首飾りが一連ずーっと見事なのが入ってたのよね。 (data056)

「それこそ」は真珠の首飾りが月の雫のようであることを強調している。

2. 情報付加

④前に述べたことに対する情報付加（具体化）

(4) F011: わたしも前に、(はい) それこそ F089 さんの C にいてはったところに、そや、80、そやから88年にフランスから帰ってきて、そっから2年間またCで非常勤してて(後略) (data007)

「前に」という漠然とした表現を聞き手が理解しやすいように具体化するため、「それこそ」を用いて「F089さんのCにいてはったところに」という情報を付加している。

⑤前に述べたことに対する情報付加（理由説明）

(5) F021: 別に嫌じゃないよ。それこそ、Dもいるしさ、別にあれだけど。 (data026)

「別に嫌じゃない」と思う理由を述べる際に「それこそ」を用いて「Dもいるしさ」と説明している。

⑥相手が述べたことに対する情報付加

(6) F098: ぎんなんも一緒に届いたの。(中略) ねえ。やっぱり農家なのかな、元は。知らん。

F011: それこそ、ぎんなんは、パリに住んでたときにも近くの公園でひらって食べたことある。

(data018)

話し相手が話題にしていた「ぎんなん」に関連したことを話し始める際、「それこそ」を用いている。

主要参考文献

庵功雄（2007）『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版

金水敏（1999）「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』6(4), pp. 67-91

日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法5』くろしお出版